

ブランパン メティエダールのアトリエが スイスに捧げるオマージュ

ブランパン メティエダールのアトリエは、ゴールドとブランパンになじみ深い赤銅（しゃくどう）を用い、象徴的なマッターホルンを面前に繰り広げられる「雌牛の闘牛」を描いた比類なき新作モデルを発表します。

ヴァルデラン原産の雌牛は、1861年にスイスの国家遺産に認定されています。紀元前3000年にはすでにヴァレー州に存在していたとされるこの牛は、その頑丈な性質と短い脚により、高度3000メートル以上を登ることができ、そしてなによりも、毎春に高山の草地へと連れていく際に行われる伝統的な闘牛で知られています。強く闘争的な性格を持つこの牛は、群れのヒエラルキーを決めるために互いに頭や角をぶつけ合って闘います。相手が背を向けるかあるいは服従の証として闘いを拒んだとき、その牛が勝者とされ、対決の末に群れの「女王の中の女王」が決定します。このステータスを得た雌牛は、豊かな放牧地を求める群れ共通の闘いにおいて他の牛を率いる権力を得るのです。ブランパンは、この新作モデルのダイヤルに、もうひとつのスイスのエンブレムにオマージュを捧げます。それが有名なマッターホルンです。海拔4,478メートルのこの山は、ピラミッドのようなシルエットでスイスにおいて最も知られる山であり、そびえたつその姿は世界のアルピニストにとって力強いシンボルであり続けています。

赤銅（しゃくどう）と緑青（ろくしょう）

赤銅は金と銅の合金です。歴史的に剣の鞘や装飾品、宝飾品を装飾するために用いられ、職人によって赤銅にエングレービングが施されたり、他の装飾が加えられたりしてきました。ブランパンのこの新作タイムピースでは、闘牛の様子を描いた装飾をゴールドに手彫りで仕上げた後、それを赤銅のダイヤル上に小さな足で固定します。すべてを組み合わせた後、ダイヤルを銅塩液に浸すことで、ダイヤルを構成するこれらの要素に緑青の独特の古色が得られます。その古色の色合いや濃さは、浸す加工の回数と時間によって決まります。エングレーバーの熟練の目と芸術的な感性が、緑青の古色の深みとニュアンスを決定づけるのです。ブランパンのロゴとマッターホルンは、極めて精密な道具を駆使する社内の職人の手作業で、赤銅技術を使用してダイヤル上にエングレービングされました。

牛の首環にはイエローゴールドが用いられ、ダマスキネ技法によりレッドゴールドの牛の装飾に組み込まれました。ダマスキネ技法とは、装飾に空洞をあけ、それを別の金属で満たす技法で、新作モデルではイエローゴールドを用いています。その後、イエローゴールドが空洞に均一に広がるよう丁寧に打ち込まれ、これによって装飾全体の表面が滑らかに仕上がった後、手作業でエングレービングと研磨が行われました。

ムーブメント

ブランパンのこの新作タイムピースは、技術面・デザイン面双方において異彩を放ちます。直径42mmのこのタイムピースは、手巻キャリバー13R3Aを搭載しています。パワーリザーブ表示は、ムーブメント裏側のブリッジに配され、サファイアケースバック越しに見ることができます。ムーブメントには3つの主ゼンマイを収めた香箱が備わり、連続して巻き上げるその構造により、8日間のパワーリザーブを誇ります。2つ目の香箱は、1つ目の香箱のエネルギーが枯渇する前に巻上げを引き継ぎ、3つ目の香箱も同様に機能します。こうした構造により、ムーブメントの精度が保証されるのです。